



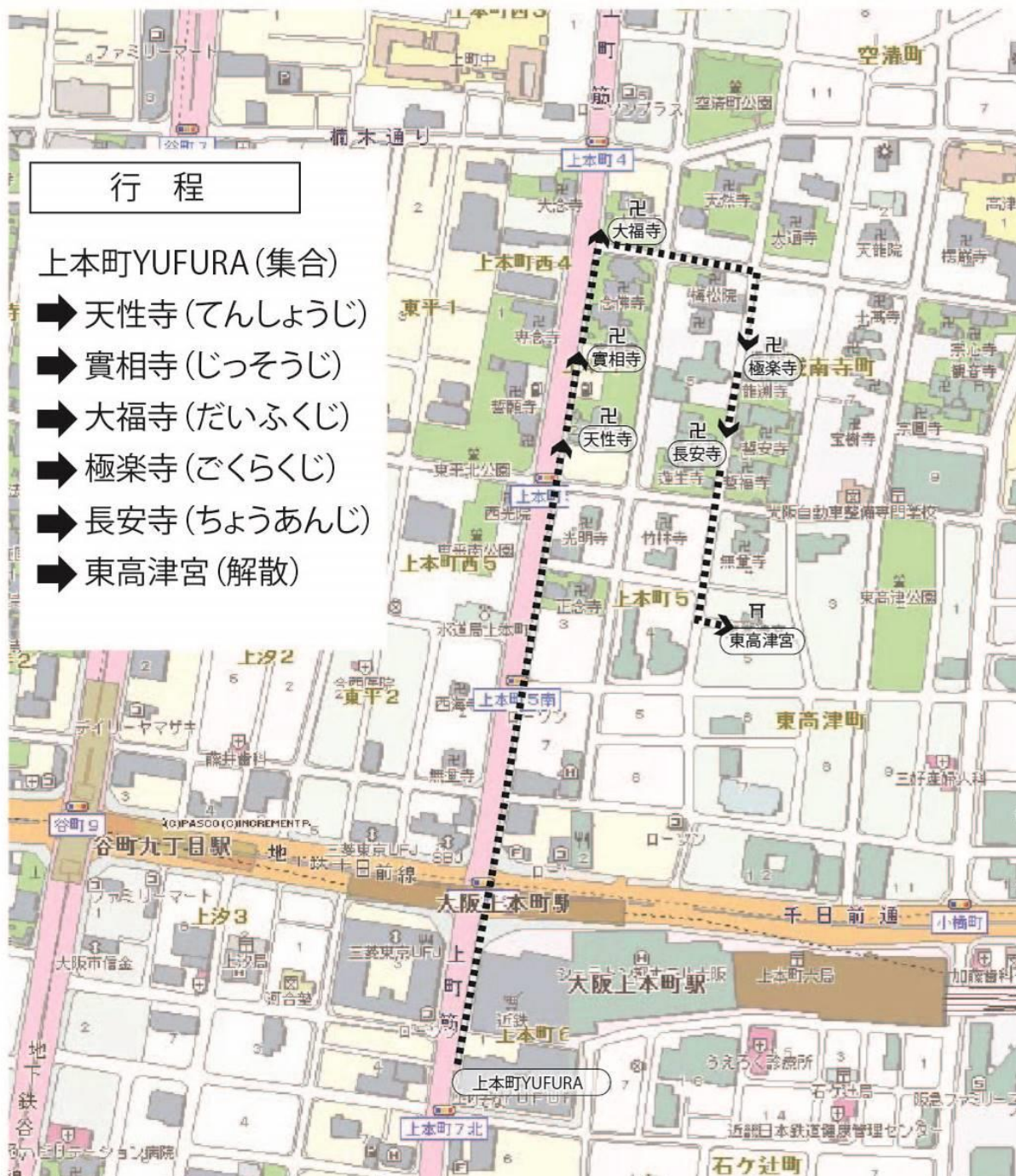
てんのうじ知りたいウォーク第13弾

「～”てらまち”上町・城南寺町を歩く～」

日時 平成29年10月22日(日) 13時受付開始 13時30分催行
主催 てんのうじ知りたい倶楽部(旧未来わがまち会議)
協力 天王寺区役所

注意事項：神聖な場所の拝観となりますので

■境内では静粛に ■拝殿では拝礼を ■社殿・お堂内は脱帽 ■ペットはご遠慮ください。



行程

上本町YUFURA(集合)

- ➡ 天性寺(てんしょうじ)
- ➡ 實相寺(じっそうじ)
- ➡ 大福寺(だいふくじ)
- ➡ 極楽寺(ごくらくじ)
- ➡ 長安寺(ちょうあんじ)
- ➡ 東高津宮(解散)

てんのうじ知りたい倶楽部メンバー募集！

てんのうじ知りたい倶楽部は会員相互に協力し、天王寺区未来わがまち会議の活動を継承しつつ、天王寺区の宝(文化・歴史・企業など)を区民に知ってもらい、天王寺区に住む喜びを感じていただくとするグループです。詳しくは tennoji.shiritai.club@gmail.com にご連絡ください。

◎上本町 YUFURA(上本町新歌舞伎座ビル)

平成22年(2010)8月、上本町駅南の近鉄劇場跡地に、近鉄創業百周年記念事業として建築されたショッピング・ゾーン。同年9月には、6階に大阪歌舞伎座が半世紀ぶりに新開場した。広場に面した西面ファサードのアルミキャストルーバーは旧大阪新歌舞伎の連続唐破風をモチーフにしており、隣接する駅・ホテル・百貨店と立体的に接続した広場をつくっている。(新歌舞伎座 平成22年夏・新劇場オープン)



◎天性寺 浄土宗 御本尊阿弥陀仏 創建天正2年5月(区史) 戦災3月14日

天正3年(1575)5月、大和當麻寺の僧眼誉道三上人が創建。慶長年間の寺町編成に際して北河内から現在地に移転したと伝わる。現在も北河内に多くの檀家を擁し、かつて遠路参拝の信徒が境内の大松を目当てに歩いたところから、「松の寺」と呼ばれた。

文化3年(1806)火災で堂宇を焼失、同5年再建。昭和20年(1945)大阪大空襲で大松ともども、山門以外の堂宇を焼失。昭和40年(1965)近代建築の粋(すい)を結集した現在の本堂・庫裏(くり)を再建した。

戦前の本尊阿弥陀仏は堂宇とともに焼失した。現在の本尊は戦後、兵庫の寺院から譲渡されたものだが、詳細は不明である。善導大師・円光大師像は昭和40年(1965)、本堂落慶とともに、観音・勢至菩薩像は平成23年(2011)に造立した。

(大阪新48願所阿弥陀巡禮より第二十三番) 大坂地藏巡り第二十九番



◎實相寺 寰公山冷泉院 浄土宗 御本尊阿弥陀仏 開基天正元年(1573)8月 戦災3月14日

御本尊 阿弥陀如来像「鎌倉時代初期、京都円派」

京都清涼寺前住職、京都国立博物館館長、京都大学人分科学研究所所長塚本善隆上人念持仏

河内若江岩田に足利義昭公嫡子實相上人〔寰蓮社玉良誉上人誠阿實相関公大和尚〕三縁山で出家修行後草庵を結ぶ。元和3年(1617)大樹將軍徳川家康公より現在地に寺領拝

五井蘭洲・椀久松山・高田実等の墓所、住友男爵の菩提所。住友家二代当主住友友以(とももち)が当寺を菩提寺と定める。「冷泉院即心良入居士」正式名称院号は戒名に由来する



◇**実相寺浄土曼荼羅図** 鎌倉時代伝恵心僧都 源信筆 重要文化財

曼荼羅図(まんだらず)とは仏画の一種で、阿弥陀や菩薩など諸尊の像を一定の方式に並べて描いたものをいう。わが国では浄土曼荼羅に、当麻曼荼羅・清海曼荼羅・智光曼荼羅の3種があるとされるが、古くから織物の曼荼羅を絵に写して拝む信仰が盛んであった。実相寺ものは当麻曼荼羅の忠実な模写で、阿弥陀如来と観音・勢至の2菩薩を中心に、極楽浄土の様子が克明に描かれている。丹念な筆の運びで一線一画もおろそかにせず、彩色にも細心の注意が払われていて鎌倉時代仏画の優秀作品とされている

◇**五井蘭洲**

1697年(元禄10年)持軒の3男に生まれる。名は純禎、字は子祥、通称藤九郎、号は蘭洲、冽庵、梅塢。五井家は父持軒の生き様が災いし、極めて貧しく、蘭洲は尼崎や信州の親戚に預けられ、転々とし、15歳で大坂に戻るが、赤貧洗うが如しの生活は変わらない状態であった。

20歳の時に京都・古義堂の伊藤東涯に入門。1726年(享保11年)懐徳堂の中井齋庵に招かれて助教となるが、翌年江戸に下り、やがて服部南郭と並び称せられる儒学者となる。

江戸在住中に一時津軽藩に仕えたが、1740年(元文5年)に病気を理由に離藩して大坂に戻る。以後、齋庵を補佐し、助教として終生懐徳堂の教育を支えた。その学問は朱子学を主とし、当時学界は復古学が流行していたがこれを批判し、荻生徂徠とも厳しく渡り合った。

齋庵の子の竹山と履軒は、帰坂後の蘭洲から厳しい薫陶を受け、懐徳堂を背負って立つ人材に育った。晩年中風に罹り、1762年(宝暦12年)66歳で没した。墓は実相寺(天王寺区上本町4丁目)にある。 [参考資料]『大阪人物辞典』

◇**椀久松山・椀屋久右衛門と松山(遊女)**

江戸時代大坂堺筋の豪商。実説は詳かではないが、西沢一鳳『伝奇作書』によると、大坂新町の傾城松山と深く契り、盆に正月遊びと称して自ら年男に扮し、豆の代わりに一步金を座敷から座敷へまいて歩くなどの放蕩の揚げ句、座敷牢に押し込められて狂死したという。没したのは菩提寺円徳寺の過去帳によると、延宝4(1676)年7月31日。井原西鶴はこの稀代の放蕩者をモデルに浮世草子『椀久一世の物語』を書いた。また、演劇、舞踊の素材としても好まれて数多くの作品に作られ、紀海音作の浄瑠璃「椀久末松山」や、長唄「其面影二人椀久」が有名である。 [出典] 朝日日本歴史人物事典

◇**高田 実**

明治4(1871)年～大正5(1916)年 俳優 東京、千住生まれ。川上音二郎一座では悪役で好評を得、のちに大阪で関西新派の旗頭となる。再び東京に戻り本郷座の座頭として新派全盛時代を築いた。墓は東京、谷中金嶺寺にもある。

◇**住友政友**

天正13(1585)年～慶安5(1652)年 住友家初代。住友家家祖。慶長十二年(一六〇七)、京都に生まれた。蘇我理右衛門の長男。通称は理兵衛。蘇我家は京都の三条で銅の製錬と細工を営み銅貿易を行っていた。家業の泉屋をつぎ、寛永年間(一六二四～四四)銅吹所を大坂淡路町に移し、鰻谷・長堀にも細工所を拡張し、その本拠を大坂に置いた。

また伯父の住友政友の娘を娶り、住友家の分家となった。大坂で製鋼の業務を拡大するとともに、長崎・平戸・博多を往反して海外と銅貿易を行なった。さらに生糸をはじめ砂糖・薬種などを輸入して利益をあげた。鎖国後に海外貿易が制限されると、幕府に働きかけ、正保三年(一六四六)、銅貿易の許可を得て、住友一族で銅貿易株をほとんど独占した。寛文二年(一六六二)没す。彼の代に後年の巨家住友の基盤が確立された。

◎大福寺 浄土宗 御本尊阿弥陀仏 天正元年(1573)2月 戦災6月1日

慶長年間(1596~1615)の創建と推測されるが、開山、開創時期などの詳細は不明。

現在銀山寺がかつて大福寺を称したが、太閤秀吉の命により改称・移転したあと、現在地あった寺院を大福寺と称するようになったと伝える。

大阪大空襲で山門を除く堂宇を焼失。本堂は現在、再建の過程にある。明治2年(1869)、境内地に大阪大学医学部の前身、大阪浪華仮病院が創建された縁により、薬事関係の檀家が多く、「医薬の寺」の歴史を持つ。池内大学(陶所夫婦)の墓所。大坂四十八地藏巡りの25番札所



◇浪華仮病院(なにわかいびょういん)跡

明治元年の布告によると、大阪に本格的な医学専門教育学校と病院建設を計画していた。学校については舎密(せいみ)局が発足したが、病院は財政難で明治2年ようやく大福寺で仮病院として開業した。院長は緒方惟準(洪庵二男)、主席教授はオランダ人ボードウィンで、医学教育にもあたった。ここにあったのはわずか3か月たらずであったが、これが大阪大学医学部へと発展する。

◇池内大学

儒医、学者、安政の大獄 1814 - 63(文化11 - 文久3)

幕末の儒学者、志士。名は奉時、通称大学、号は陶所。知恩院宮、青蓮院宮の侍読となり、公家の子弟を教えた。将軍継嗣問題では一橋慶喜の擁立を図り、戊午(ぼご)の密勅にも関与して(悪謀の四天王)の一人と目され、安政の大獄が起こると一時難を伊勢に避けたが、やがて自首。中追放という軽い処分ですんだため裏切り者視され、尊攘激派に大坂で暗殺される。[出典]世界大百科事典 第2版

◎極楽寺 山号西方山 浄土宗 御本尊阿弥陀仏 創建元和2年(1616)5月 戦災6月1日

戦災の際に、室町時代の画僧兆殿司の涅槃画像も焼失した

◇兆殿司(ちようでんす)

[生]文和1(1352). 淡路[没]永享3(1431). 8. 20.

南北朝時代~室町時代初期の画僧。字は吉山、また終生東福寺の殿司(でんす)役にとどまったため兆殿司と呼ばれ、同寺のため多くの仏画や頂相(ちんぞう)を制作した。巨大な伽藍にふさわしい大作が多く『五百羅漢図』(1386)、『大涅槃図』(1408)、『達磨蝦蟇鉄拐(だるまがまてつかい)図』3幅、『聖一国師像』などは有名。一時代前の良全を継承する絵仏師系の画家として最後の光輝を放ったが、応永年間(1394~1428)以後の詩画軸全盛期には傍流となる。墨画の『大道和尚図』(1394, 奈良国立博物館)や『聖一国師岩上像』(東福寺)があることから、水墨山水図制作の可能性もあり、『溪陰小築図』(1413, 南禅寺金地院)、『青山白雲図』などが注目される。[出典]ブリタニカ国際大百科事典



◎長安寺 瀧水山金字院 浄土宗 御本尊阿弥陀仏 創建 天正年間（1573～1592）寂譽上人

戦災 1月20日・3月14日・6月1日

昭和20年（1945）1月20日午後7時30分墓地に1発（50吨～100吨）3月の大阪大空襲で観音堂他一棟を焼失。ついで6月の大空襲で、山門以外すべての堂宇を焼失、由来品はほとんど現存しないが、境内には、火難除けの遠州秋葉神社、秋葉講供養塔が存在する。

昭和47年11月に本堂を再建。御本尊本尊阿弥陀仏像は身の丈約2メートルの大きな立像で、来迎の印を結ぶ。戦災の火難は免れたが、その後昭和25年9月3日ジェーン台風で仮本堂が倒壊とともに損傷、京都の国宝修理所で修復され現在に至る。修復の過程で阿弥陀如来胎内から奉加帳が発見される。

寛文3年（1663）の奉加帳には多くの信者からの寄進により、加古川の鶴林寺より当山に請来された聖徳太子御作と伝えられている。制作時期、作者などは不明である。



大坂四十八箇寺阿弥陀巡礼第20番札所（元文5年(1740)創設）、大阪新四十八願所阿弥陀巡礼第20番札所（平成24年再興） 役行者十一ヶ所御縁日7番札所、曾根崎心中で有名な大坂観音三十三カ所霊場第十四番札所（寛文年間(1661～1673)創設）にも数えられ、江戸時代にも巡礼の札所として多くの方々がお参りされた。

現住職は第27世法譽潤宏、花菖蒲の栽培を始めて10年、トンボやカエルが自然に生息する境内では5月下旬から6月上旬にかけては花菖蒲が開花し色彩りを添える。都会で育っ子ども達にお寺を身近に感じ、仏様に手を合わせさせる機会を持つよう、4月は花まつり8月は地藏盆12月は成道会の子ども会が開催される。

<参考>

鶴林寺（かくりんじ）山号刀田山（とたさん）かこ 加古川市加古川町北在家424

589年、聖徳太子が16才の時、秦河勝（はたのかわかつ）に命じ仏教をひろめるための道場として建てられました。釈迦三尊と四天王を祀り「四天王寺聖霊院」と称されたのがこの寺のはじまりといわれ、播磨の法隆寺とも呼ばれています。平安時代の壁画が見つかった県下最古の木造建築物、国宝「太子堂」や、泥棒が盗み出し壊そうとしたら「アイタタ」という声が聞こえてきたため、改心したと伝えられている「銅造聖観音立像」など、多くの文化財が残されています。[出典] 加古川観光協会 HP

◎東高津宮 御祭神 第16代仁徳天皇、その皇后である磐之姫命

創祀・創建年代は不詳。仁徳天皇社と称していたこともある。また、平野社とも。平安時代、嘉保3年・永長元年（1097年）の浪速古図に「仁徳天皇皇居大宮跡平野社」とある。もとは生国魂神社の南にあったが、大坂城築城の折、現在地付近、現在の大阪上本町駅構内に遷座したという。境内には遷宮記念碑が建っている（昭和7年7月3日）

明治維新後今の社名に改む、明治5年（1872）村社に列した。明治31年（1898）大阪府の調査報告で、当宮は仁徳天皇の皇居であるとされた。大正2年（1913）10月、神饌幣帛料供進社に指定された。昭和7年（1932）大軌（近鉄）の上本町駅拡張工事の折、新梅屋敷であった現在地に移転した。

現在地を元高津とするのは、当社から高津宮が遷座したからとされる。ただし、現在は高津宮に合祀された北高津宮が遷座したからとも。戦災で社殿を焼失したが、昭和42年（1967）に高津宮の拝殿を移築復興した。境内社に、王仁神社（王仁）・白豊稻荷神社がある。

例祭は7月10日・11日。海の日以前の土曜日に夏祭りがある。子供御輿・子供枕太鼓が地域を巡行し、前日の宵宮を含め夜店が出る。無病息災の福餅撒きや神楽舞が行われる。

【ご利益】平穏安寧、夫婦和合、子宝・安産・子育て

磐船稻荷神社 御祭神 宇加御魂之神

沿革 明治維新の際、神仏分離により隣接していた難波寺（野中観音）より稻荷神社・八幡神社・多賀神社を「磐船稻荷神社」として当宮に遷座されました。

高津（たかつ）という地名は「磐船」にのって「アメノサグメノカミ」が天下られたところだと「摂津国風土記逸文」に記載されています。高津磐船は味原町の一角に碑があります

